

平成22年度
(23年3月まで)

私たちの税金の使われ方は、どうなってるの？

財政事情を公表します

財政課 内線 1571

▶市では年2回予算の執行状況を公表しています▶今回は平成23年3月31日までのかすみがうら市の財政事情をお知らせします。※割合は小数点第2位を四捨五入し掲載しています。

▶一般会計 予算額▶173億8,546万1千円
(繰越分9億8,650万2千円を含む)
 歳入済額▶140億5,569万6千円(80.8%)
 歳出済額▶143億1,768万5千円(82.4%)

(上段:予算額 下段:歳入済額)	歳入	歳出	(上段:予算額 下段:歳出済額)
市税 (109.3)	48億4,349万2千円	51億1,530万5千円	民生費 (94.9)
地方交付税 (101.0)	38億1,626万円	33億2,277万8千円	総務費 (64.3)
国庫支出金 (78.2)	26億9,664万7千円	26億7,876万8千円	教育費 (71.2)
市債 (1.8)	22億8,900万円	17億4,461万9千円	公債費 (99.3)
県支出金 (42.5)	9億662万6千円	15億7,615万円	土木費 (73.6)
繰入金 (36.6)	7億8,818万4千円	9億9,976万4千円	衛生費 (89.3)
繰越金 (185.8)	2億8,858万円	8億9,268万9千円	消防費 (82.2)
地方消費税交付金 (108.9)	7億100万9千円	8億9,134万1千円	農林水産業費 (86.4)
地方譲与税 (105.0)	3億3,200万円	5億8,860万5千円	商工費 (82.4)
分担金・負担金ほか (99.4)	3億6,140万1千円	2億8,322万1千円	議会費ほか (87.8)
	7億3,716万2千円	1億6,233万4千円	

▶一般会計▶皆さんの暮らしに身近な仕事を行うための市の基本的な会計

▶特別会計▶特定の事業を行う場合や特定の収入を特定の支出に充てるために、一般会計と区分して経理している会計

▶基金▶特定の目的のために財産を維持し、資金を積み立て、または定額の資金を運用するために設けられる資金又は財産

▶地方債▶特定の歳出に充てるため地方自治体が年度を越えて元利を償還する借入金

▶基金現在高の状況

区分	予算額(円)
財政調整	8億4,927万4千
土地開発	2億5,434万1千
高額療養費貸付	1,003万8千
国保支払準備	76万3千
国保出産費貸付	502万2千
霞ヶ浦水質浄化対策	8,542万8千
減債	3億8,257万6千
地域づくり	2億7,299万9千
地域福祉	4億2,799万7千
宅地開発	356万1千
庁舎建設	1億3,137万3千
借地取得	7,155万2千
教育施設整備	3億2,789万1千
農業集落排水施設維持管理	112万5千
介護給付費等準備	9,308万2千
地域振興	7億1,356万2千
光をそそぐ交付金	1,050万
介護従事者処遇改善臨時特例	
一般旅券発給事務証紙等購買	140万
合計	36億4,248万4千

▶一時借入金の状況

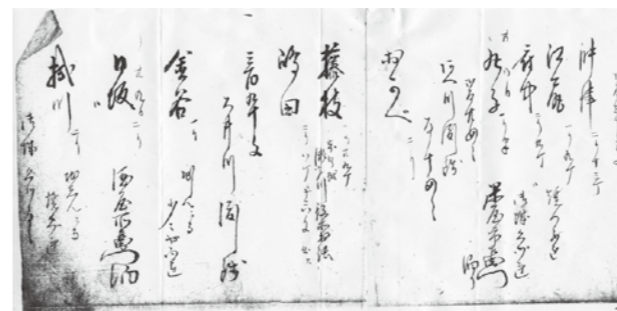
現在高	0円
-----	----



霞ヶ浦周辺の古文書を読む会

地域の歴史を古文書で読む

安政元～2年には東海・南海・江戸直下型と3連動地震が起きました。これはその最中、お伊勢参りに出かけた加茂の松葉又蔵氏の道中日記です。生々しい東海地方の惨状が記されています。



また、上稲吉の豊崎三郎兵衛氏の道中日記には長谷寺地方最大の水害の様子が記録されています。

この地に生きた人々の生の声が聞けるのは古文書です。あなたも読んでみませんか。

例会▶毎月第2.4木曜日 あじさい館

代表▶岡田久男(牛渡)

☆文化協会加盟団体紹介☆

千代田短歌会
 水温み溪谷にとび散る水しぶきもの芽しつとり緑したたる
 彼の岸にゆきてまみえむ橋あらば豈わだつみの罪は問ふまじ
 雪降りて風の冷たさ身に沁みて暮参りするわれは寂しい
 大地震と岸壁越えて押し寄せし津波の爪痕至る所に
 目黒しづ子(稲吉東)
 遠藤富重(下稲吉)
 岩本アイ(下稲吉)
 大西 周(稲吉東)

出島短歌会
 ふる里の姉弟は逝きませし吾れ悲しみを想ひ出に生きぬ
 色冴えて塀よりのぞく葉鶏頭お前は何か見たいと言ふの
 小室貞江(西成井)
 小貫弘子(牛渡)

投稿(俳句) ※7月号に誤りがありましたので、再掲します。
 菜園や一抱えほどの麦の秋
 渡辺静江(稲吉東)

文芸ひろば 短歌

四国八十八箇所 霊場移しの活用

市内を中心に、江戸時代に設定された「出島地方四国八十八箇所霊場移し」というものがあります。明和四年(1767)、下

軽部地区にある塙山長福寺の正応上人が、大変ご利益がある弘法大師霊場とされる四国八十八箇所霊場巡りに、実際に歩くことが困難な方々を憐んで、八十八箇所の砂をはるばる当地へ持ち帰り、当地のそれぞれの寺院へ霊場を移していきまし

た。これが当地に残る「出島地方四国八十八箇所霊場移し」です。八十八箇所の札所は、61箇所は市内に、27箇所は石岡市と土浦市に設定されました。各札所にはそれぞれ弘法大師の石造と共に、四国霊場の札所番号、霊場寺院名、一部には、ご詠歌まで刻まれ、札所であることを示したのでした。



小池一司さん(下稲吉)

小池一司

市 内を中心に、江戸時代に設定された「出島地方四国八十八箇所霊場移し」というものがあります。明和四年(1767)、下

地 元はもとより多くの方々

が当地を訪れ、参拝し、現在でいうウオーケラー的な娯楽の要素もあつた霊場巡拝は、大変にぎわいをみせていたそうです。この埋もれた当時の楽しみ、そしてにぎわいを現在も市の魅力として活かせないかと模索しています。今後も、札所の環境整備や立て看板の設置、案内マップの作成などを実施していければと考えています。

市民学芸員 雑記帳

市民学芸員▶市の歴史・文化などを学ぶ市民学芸員養成講座を修了し、認定された方たち。現在31人。今後の活躍が期待されています。